

## ◆『舞台技術者養成講座(入門編)』 2月は舞台実技実習を行いました

1月の講義『劇場について』『舞台について』『照明について』『音響について』を終え、いよいよ2月からは総合文化会館大ホール舞台を使つての実習です。講義では、受講者23名のみなさん、欠席することなく熱心に受講されていました。実習も楽しみながら受講していただき、多くを吸収し自分のものにしてください。

### ◆舞台実習 …2/2(水) 19:00-21:00

今日から、舞台を使つての実習です。技術協力として、[たんば田園交響ホールステージオペレータークラブ\(SOC\)](#)のみなさんにも参加いただきます。

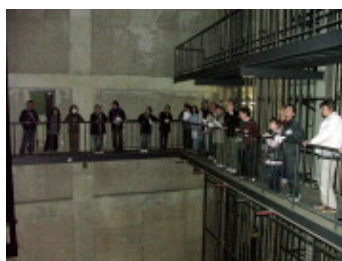
まず『ホール構造の見学』として、講師である片浦さんの説明で舞台廻りを見学。『迫り』に乗って奈落へ。みなさん、こんな機会でもないと思えないので積極的に体験します。奈落(ホールの底)から『ギャラリー』と呼ばれる舞台を取り囲む様に巡らされた通路へ向かうため階段を登って行き、舞台面より11m(4階)の高所より舞台設備を見ます。あまりの高さにみなさんビックリ。でも本当はここから更に10m上に『簀の子』という舞台最上部がありますが危険なため本日はここまで。次ぎは『シーリング投光室』ここは客席天井部の照明器具のある所、その後『フロント投光室』『音響室』へと廻りました。どこも普段は、見られない所ばかりです。



ステージオペレータークラブ(SOC)のみなさん



『迫り』に乗って奈落へ



ギャラリーにて

実習では、『綱場(つなば)』(物を吊るす美術バトンを上下操作する場所)の説明と操作の体験をして、実際に美術バトンを下ろして文字幕(もんじまく)を吊り込んでみます。また、『鉄管結び』と呼ばれる舞台で基本となるロープの結び方を全員で行いました。この結び方は実生活でも使えます、ぜひ活用してください。

最後に、舞台上で、合唱団や吹奏楽団などが演奏する時に乗る台、『平台(ひらだい)』を組み立てます。120cm×180cmの平台を6枚並べて、足をかませて高さを付け、それを2段組み立てます。SOCの方にもお手伝いいただき、なんとかみんなで組み上げることができました。

みなさんの感想は…。『初めて見る物ばかり。とても新鮮でした』『舞台裏を見学でき、違った角度から舞台鑑賞ができます』『舞台には危険な所が多くあることが分かった』など。危険という事では片浦さんも、『舞台は演出を伴うあらゆる催し物を楽しむ特定の場所。そのための仕掛けが必要です。仕掛けをするには必ず危険が伴います。舞台に居る時は前後左右上下にいつでも注意が必要です。安全な作業や仕掛けがあってこそ舞台が成り立ちます。事故は絶対あってはならないのです。～劇場は創造の場、夢の箱～なのですから。』



文字幕の吊り込み



鉄管結びを習得



みんなで平台を組んでみます

### ◆照明実習 …2/6(日) 13:30-16:00

『劇場における照明設備の把握』ということで、舞台照明の中核、調光室(ちょうこうしつ)を見学。調光卓(照明操作卓)から照明器具が点灯するまでの電気の流れ等の説明を受けます。

次に、照明器具の解説をレンズ種類の違い、用途の違いで説明。実際に点灯してみても、投光される明かりの違いを見ました。何を照らすのか、どのように明るく見せるのかによって、選ぶ器具が違うことを説明してもらい多種多様な器具が存在し、舞台には必要なことを学びました。みなさんには、照明仕込図(設計図)に従って、器具をセットしカラーフィルター(色)を入れてもらう体験をしていただきましたが、なかなか思うようにセットできません。そこで市民ボランティアスタッフの先輩でもあるSOCのみなさんにサポートしていただき、なんとか吊り込み終了。

客席に仮設した移動型調光卓を使用して、片浦さんが事前に仕込み(準備)した器具と合わせて、照明効果を見せていただきます。舞台に立つ人物が引き立つような効果や、バックの色、雲が流れたり、それは美しい明かりでした。受講者一人一人、調光卓を触って明かりづくりを体験してみました。

受講者の一人は、『用途、種類の違う器具、一つ一つが集まって、仕込図(設計図)どおりの照明ができ、素晴らしい明かりを見せてくれるのが分かりました。照明準備だけでも、すごい時間がかかるのが分かりました。』と感心しきり。

照明について片浦さんは、『舞台に照明は絶対必要なのですが、あくまでも裏方、脇役でなくてははいけません。芝居、コンサートで、役者や歌手を越えてはいけません。“ああ、今日の照明は良かった”は本来ダメなのです。』



調光卓の説明



器具の構造について



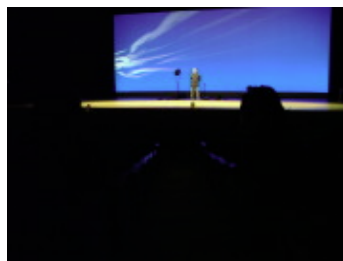
SOCさんにもお手伝いしていただき



照明デモ



みんなで操作体験



こんな効果はいかが?

### ◆音響実習 …2/16(水) 19:00-21:00

本日の講師は、講義に引き続き森 正人さん。『劇場における音響設備の把握』ということで、プロセニアムスピーカーの設

置場所を見学。客席上方天井にあり、人の背丈を越えるスピーカーを見て、広い客席をカバーするのに必要な大きさと数量を実感していただきました。

次に、客席に仮設した移動型ミキサー卓を使用して、劇場音響設備の説明、音声がどういう経路で出てくるのかを説明していただきました。さて実習ですが、音響技術者の基本中の基本“マイクコードの8の字巻き”から始まります。これは、マイクコードを巻いた状態から解く時に、振れたり、絡まったりしないように、巻取る時に“8の字”を書くように巻取るやりかたです。みなさん初めての体験。もう大変です!! ここでもSOCさんにご協力いただき、一人一人見ていただいてなんとかなる状態になりました。

講師の森さんに、仮の『舞鶴舞台技術者音楽会・表彰式』の設定で音響台本を作成していただき、表彰式に必要な司会・表彰マイク、受賞者が歌うマイクとモニタースピーカーのセットを用意。台本に従ってミキサー卓を操作し、ファンファーレなどの効果音を流したり、舞台ではマイク転換を体験していただきました。操作する箇所が、少し多かったようで、台本を追いながら真剣に取り組んでいました。

実習後、ご自分で音響機材をお持ちの受講者の方より、『ハウリングの防止、対処方法はどうしたらいいのか。グラフィックイコライザーの使用方法は?』など専門的な質問があり、森さんは丁寧に説明され、質問者も納得の様子でした。



プロセニアムスピーカー設置場所



劇場音響設備の説明



“8の字巻き”をします



マイクスタンドの扱い方



ミキサー卓の操作



マイク・スピーカーをセット

舞台・照明・音響の実技実習はこれで終了です。受講者のみなさん、実際に機材に触れてみていかがでしたか？

時間が短く、じっくりと機材に触れていただくことはできませんでしたが、舞台という場所、舞台技術の現場を少しではありますが理解していただけたことと思います。

いよいよ、3/13(日)は、修了実習の『[Music Festival 2011](#)』です。みなさん、楽しく、自信を持って参加しましょう。